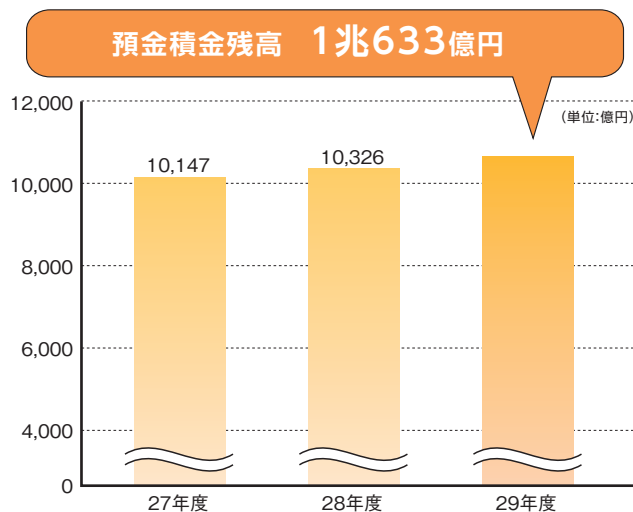


事業の概況

預金積金の状況 (預金積金残高の推移)

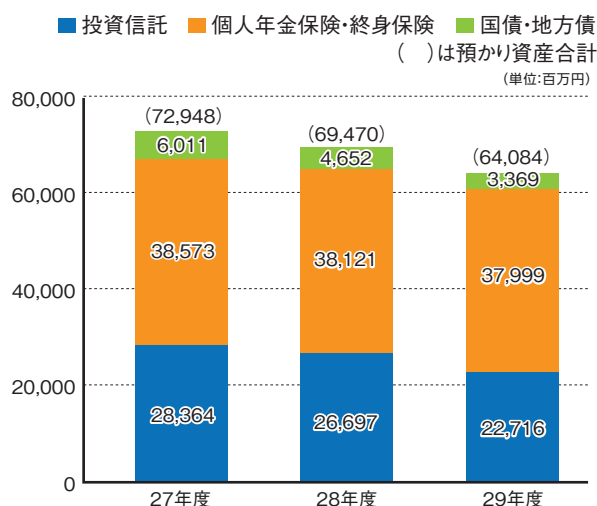
預金積金は、個人預金が112億円、一般法人預金が70億円、金融機関預金が14億円、公金預金が109億円とそれぞれ増加し、期末残高は1兆633億円となり前年度から306億円増加(増加率3.0%)しました。



預かり資産の状況

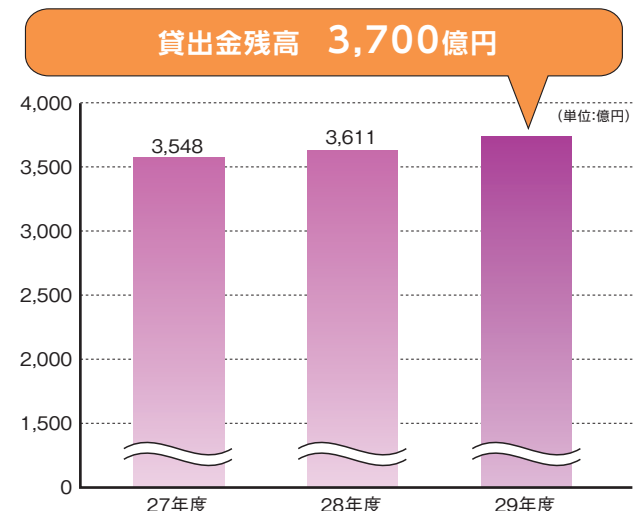
国債・地方債、投資信託、個人年金保険等を合算した預かり資産残高は640億円となりました。

金融商品の品揃え充実やマネーアドバイザースタッフ(金融商品専門担当者)の育成・配置により、今後もお客さまのニーズに合致した各種金融商品の販売充実に努めます。



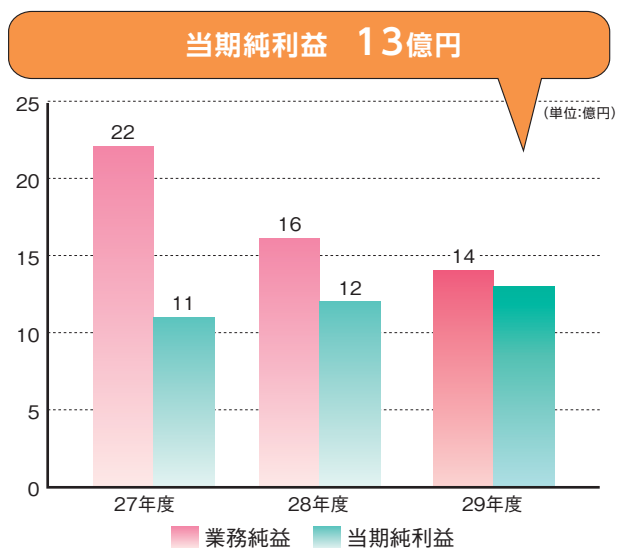
貸出金の状況 (貸出金残高の推移)

貸出金は、個人向け貸出が19億円、個人事業者向け貸出が4億円、法人(公金等含む)向け貸出が65億円とそれぞれ増加し、期末残高は3,700億円となり前年度から88億円増加(増加率2.4%)しました。



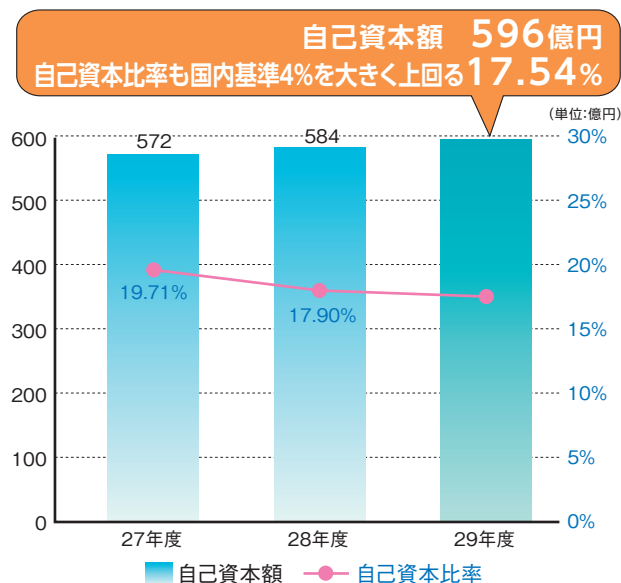
収益の状況（業務純益と当期純利益の推移）

金融機関の営業利益に相当する利益をあらわす業務純益は前期比2億93百万円減益の14億6百万円となりましたが、最終の税引後利益をあらわす当期純利益は79百万円増益の13億6百万円を計上しました。



自己資本比率の状況（自己資本比率等の推移）

単体自己資本比率は、17.54%（前期比0.36ポイント低下）となりました。国内基準4%の4倍を超えており当金庫の経営が健全かつ安全であることを示しています。安定した利益確保の継続により、リスクへの備えとしての自己資本額は596億円にのびります。



金融再生法に基づく開示債権残高・構成比

金融再生法開示債権ベースの不良債権比率は3.31%となりました。今期も償却とともに適正な引当を実施しており、厚い内部留保とあわせて当金庫の不良債権に対する備えは万全です。

